

雲取山(2010m)山行報告



【山行日】 2015年 11月28日(土)～
11月29日(日)

【集 合】 岩舟支所P AM 6:00

【費 用】 マイカー1台 : 10,000円

【メンバー】 CL: 鈴木、岩淵、香川、大西、島田、
関、津佐、藤原、増田、松館、渡辺

11月28日(土) 快晴 三峰神社から霧藻ヶ
峰経由で雲取山に登り、雲取山荘に泊る。

岩舟支所 P6:00＝三峰神社 P8:50/9:10～

霧藻ヶ峰 10:50/11:00～前白岩手 P11:55/12:25

～白岩山 13:10～雲取山荘 14:35/15:10～雲取山 15:40/15:55～雲取山荘 16:30

今年の日本百名山の締めとして、雲取山に登る計画をした。雲取山に登るコースはいくつかあるが、マイカー登山に便利な三峰神社から白岩山経由で登ることにした。

三峰神社の駐車場に着き、2日分の駐車料を払い奥の駐車場に車を止める。

トイレとストレッチを済ませ、出発する。

駐車場から、三峰神社からの道へ出て右に進むと数分で石の鳥居がある。

ここが登山口で、登山届を出し登山者数をカウンターに打ち込む。途中、妙法ヶ岳への道を左に分け、檜の植林帯の中を緩やかに登って行く。やがて平坦なブナとスズタケの道を進むと、炭焼き窯がある炭焼き平だ。陽だまりで休憩をとり、水分を補給する。自然林の気持ち良い登山道を進み、少し傾斜が増してきたジグザグ道をしばらくたどると、小さな地藏尊がある地藏峠に出る。

峠からひと登りすると展望が開け、奥地藏のピークだが植生保護のロープが張られ入れない。



一旦下ってすぐ左手にトイレがあり、岩壁にはめ込まれた秩父宮のレリーフを見れば霧藻小屋の立つ霧藻ヶ峰である。両神山や浅間山の眺望が素晴らしく、大休止を取って景色を楽しむ。霧藻ヶ峰から下った所が「お清平」で、太陽寺からの道と合わさる。ここから前白岩までの1時間が、今日のコースできつい所だ。高度が1500mを越えると、数日前に降った雪が残っている。ゆっくり確実に登り高度を上げて行く。12時近くになるので、前白岩手前の尾根の陽だまりでランチタイ



ムとする。天気は最高で、和名倉山の稜線上に南アルプスの白い峰が顔をのぞかせ我々を楽しませてくれ、温かいすいとん汁とおにぎりがいつもより美味しく感じる。ほんの少し頑張ると前白岩に着き、しばらく進むと白岩小屋が現れほっとする。さらに樹林帯の急登を頑張ると、白岩山山頂に着く。ベンチとテーブルがあるが、雪が残っていて使用できない。大きなニホンジカが現れ、写真をとったり声を掛けたりするが、食べ物をあげないので樹林帯の中に入ってしまった。



ここから大ダワまでは、芋ノ木ドッケの西腹を巻くトラバース道となり、登りの苦勞から解放されるが、残雪が多く慎重に歩いて行く。

足元ばかりに気を取られるが、ふと見上げると雲取山が近づいてきている。長沢背稜縦走路を左に分け、スズタケの中をゆるやかに下ると大ダワに着く。いよいよ雲取山の尾根に取りつき、20分頑張ると雲取山荘に着いた。早速受付を済ませ部屋に案内されるが、今日は混雑していて1部屋に11名で使用するようになった。少し休憩してから荷物を整理し、山頂に登ることにする。軽アイゼンを付け、樹林帯の雪と岩が混ざった登山道を登るが、降りてくる登山者が多くすれ違いに時間が掛かる。やっと今年最後の日本百名山「雲取山」の山頂に立つ



ことが出来感動の瞬間を迎える。

皆さん手を取り合って喜び、徳ちゃんの「バンザーイ」の聲がこだまする。富士山はぼやけてしまったが、眺望は素晴らしく皆さん思い思いに写真を撮り楽しんでた。来た道に戻って雲取山荘に着き、お楽しみの反省会。夕食までの短い時間だったが、炬燵を囲んでの宴会は盛り上がり、絶好調の所に夕食のアナウンス。食堂で夕食をいただき、明日に備えて早めに床に就いた。

若い人たちは元気で、雲取山荘の「鎌仙人」として有名な富田治三郎氏の祭事参加し、談話室で他の登山客たちと交流会をして来たようだ。

11月29日(日) 快晴 雲取山頂でご来光を拝み、往路を戻って三峰神社へ下山。

雲取山荘 5:50～雲取山頂 6:10/6:45～雲取山荘 6:55/7:10～白岩山 8:30～霧藻ヶ峰 10:10/10:20～三峰神社 11:30/11:40～大滝温泉 12:10/13:10～峰岸肉店 14:05～道の駅「かわもと」14:25/15:10＝岩舟支所 P16:40

朝4時に起床し布団を片付け、5時からの朝食前に出発の準備を整える。昨夜は炬燵に足を入れて寝た為、熱くて良く眠れなかったようで皆元気が無い。6時からご来光を見に山頂へ行く予定だが、体調不良でパスする人が出た。仕方なく山頂に登る人と、山荘に残る人を確認すると、登る人は5

人が出た。仕方なく山頂に登る人と、山荘に残る人を確認すると、登る人は5



人になってしまった。朝食を食べ二班に分け、山頂アタック隊は荷物を外の自炊室に置いて出発する。残留班はSLにお願いし、朝食後準備ができ次第先行して下山してもらう。

ヘッドランプを点け山頂を目指して出発したが、昨日雪の状況を確認したので登りはアイゼンを付けずに登る。アイゼン無しでも問題なく歩け、20分で山頂に着く。東の空が赤く染まり、西には富士山がうっすらと赤く染まり聳えている。先客が数人撮影場所を確保しており、我々も撮影ポイントに陣取る。6時30分過ぎに荘

厳な日の出ショーが始まった。すると徳ちゃんのバンザイの声に周りの人から笑いの渦が…。地平線のすぐ上に雲があり、完全な丸い太陽ではなかったが見ごたえがある日の出を堪能した。富士山も朝日を受け、堂々とした姿を見せていた。その手前に雁が腹摺山と大菩薩嶺、左には丹沢や奥多摩の山々が見え、奥には真っ白な南アルプスの雄峰群と飽くことのない展望に大感動。眺望を楽しみ、記念写真を撮って下山する。下山は心配な方はアイゼンを



付け、来た道を下り山荘まで戻った。山荘に着き、準備をしてトイレを済ませて出発する。大ダワまでの下りは、雪が少しあるのでゆっくりと下る。途中、ニホンジカの家族に出会い写真に収める。大ダワの先から登りになるが、大勢のツアー登山者で賑わっていた。芋ノ木ドツケまでのトラバース道は、雪が多いのでアイゼンを装着していた。道を譲ってもらい、先行させてもらう。その先



に行くとも20人くらいのパーティーがゆっくり登っていた。アイゼンを付けていたが、初心者が多くゆっくりしか歩けないようだ。しばらく後をついて行き、階段を登った先の広い場所で先に行かせてもらう。さらに雪のトラバース道を進むと、芋ノ木ドツケ手前の登りで先行隊に追いついた。芋ノ木ドツケで休憩をとり、リンゴや菓子を食べながらお互いの情報を報告する。





ここからは全員一緒に歩き、おしゃべりしながら白岩山に着いた。昨日のニホンジカが出迎えてくれたが、何ももらえないので樹林帯の中に戻って行った。皆さん下りは快調に歩き、登りが辛かった前白岩で小休止。ここからも軽快に下り、あっという間に霧藻ヶ峰休憩舎に着いた。大休止をとりミカンやチョコレート等でエネルギー補給し、トイレを済ませて出発する。炭焼平までは自然林の中を歩き、日差しを受けてとても気持ちよく歩ける。

炭焼平からは植林帯の道を一気に下り、予定より早く下山出来た。

大滝温泉で2日間の汗を流し、隣接するレストランで昼食を摂り帰路につく。

途中寄居町の「肉の峰岸」と道の駅「かわもと」でお土産を買い、予定より早く岩舟支所に帰着した。

2日間とも好天に恵まれ、今年最後の日本百名山を無事雲取山で締めることができた。